

国語科シラバス（第2学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

文章の内容や表現の仕方を理解させるために、効果的な言語活動を行います。
漢字練習や小テストを実施し、語句の知識を身につけさせます。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

根拠を明確にし、筋道を立てて自分の考えをまとめる、発表する等の学習活動を展開します。
ワークシートを活用し、重点的に書く活動を取り入れ、自分の考えを表現する学習活動を展開します。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

新授業六束を徹底して指導し、授業規律を確立させます。
デジタル教科書などの視覚的教材を活用し、指導の工夫を図り、学習意欲を喚起させます。

● 評価の観点と評価規準

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度 (関心・意欲)	思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと ・書くこと・読むこと)	知識・技能 (文法・漢字 ・言語活動)
評価規準	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。	目的や場面に応じて、自分の考えや気持ちを明確に表現することができる。 話し手の考えや意見を聞いて、意図や目的を理解することができる。 伝えたい事実や事柄、考えをまとめ、材料を整理して適切に文章表現することができる。 文章に表れているものの見方や考え方を正しく理解し、自分のものの見方や考え方を広げることができる。	音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する知識を身につけて活用することができる。
評価方法	提出物、ノート記述 ポートフォリオ評価 漢字・文法の確認テスト	発言、スピーチ、聞き取りテスト 課題作文、ワークシート 定期テスト、小テスト、ポートフォリオ評価	漢字・文法の確認テスト、定期テスト 小テスト、ポートフォリオ評価

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} A ^{マル} O ^{マル} A ^{マル} O ^{マル} A ^{マル} O	15点	^{マル} A ^{マル} O ^{マル} A ^{マル} O A	14点			5
^{マル} A ^{マル} O A A	13点	A A A	12点	^{マル} A ^{マル} O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B ^{マル} C ^{マル} O	8点	3
B ^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O	7点	^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O	6点	^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O C	5点	2
^{マル} C ^{マル} O C C	4点	C C C	3点			1

第2学年 各学期の学習の内容とポイント

	学 習 す る こ と	学 習 の ポ イ ン ト
一 学 期	【話すこと・聞くこと】 ・「問いを立てながら聞く」 ・「魅力的な提案をしよう」 【書くこと】 ・自分流の「枕草子」を書こう ・「多様な方法で情報を集めよう」 ・「言葉を比べよう」 【読むこと】 ・「見えないだけ」牟礼慶子 ・「アイスプラネット」椎名誠 ・「枕草子」清少納言 ・「クマゼミ増加の原因を探る」沼田英治 ・「短歌に親しむ」馬場あき子 ・「短歌を味わう」 ・「言葉の力」大岡信 【文法・漢字等】 ・熟語の構成・類義語・対義語・多義語 ・自立語と付属語 自立語の分類・硬筆	○資料を活用した説明の仕方を学びます。わかりやすく印象的な説明の仕方を考えましょう。 ○目的や相手に応じて、説明の仕方を工夫して書きましょう。 ○小説は、作品中の言葉を手がかりにして、作者の思いや登場人物の心情を読み取っていきましょう。詩や短歌は、繰り返し音読することによって、イメージを広げていきましょう。 説明的文章は、文章の全体と部分の関係や、具体的事例の役割などに注意して、筆者の主張を読み取りましょう。 ○漢字は、定期的に確認テストを実施します。文法は覚えることがたくさんあります。練習問題を繰り返し解きながら理解を深めましょう。 ○硬筆は、校内に展示します。優秀作品は市の展覧会に出品します。
二 学 期	【話すこと・聞くこと】 ・「聞き上手になろう」 ・「立場を尊重して話し合おう」 【書くこと】 ・「表現を工夫して書こう」 ・「根拠の適切さを考えて書こう」 ・「魅力を効果的に伝えよう」 【読むこと】 ・「ヒューマノイド」伊坂幸太郎 ・「字のない葉書」向田邦子 ・「モアイは語る」安田喜憲 ・「君は『最後の晩餐』を知っているか」布施英利 ・「平家物語」 ・「徒然草」兼好法師 ・「月夜の浜辺」中原中也 ・「漢詩の風景」石川忠久 【文法・漢字等】 ・敬語 ・自立語の活用 ・同じ訓・同じ音をもつ漢字・書き初め	○相手の立場を尊重し、相手の意見を受け入れながら、自分の意見を述べていきましょう。 ○意見文の書き方を学びます。自分の立場を明らかにし、根拠を明らかにして、説得力のある文章を書きましょう。 ○2学期は古典学習が入ってきます。繰り返し音読し、文体やリズムに慣れましょう。また、古人のものの見方や考え方に着目して読んでいきましょう。漢詩では、漢文の訓読の仕方も学習します。訓読のルールをしっかりと理解しましょう。 ○敬語は、尊敬語・謙譲語・丁寧語を理解し、実際に使えるようにしましょう。 同訓異字・同音異義語は、意味や用例を辞書で調べ、理解を深めましょう。 文法で学習する「活用」は3学期にもつながります。確実に理解をしましょう。 ○書き初めも硬筆と同様、校内に展示し、優秀作品は市の展覧会に出品します。
三 学 期	【話すこと・聞くこと】 ・国語の学びを振り返ろう 【書くこと】 ・「構成や展開を工夫して書こう」 【読むこと】 ・「走れメロス」太宰治 ・「鍵」茨木のり子 【文法・漢字等】 ・付属語 ・送り仮名の付け方 ・話し言葉と書き言葉	○「走れメロス」では、作品中の描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を読み味わいましょう。 ○文法は、1学期同様覚えることがたくさんあります。付属語は意味や働きを理解することが大切です。練習問題を繰り返し解きながら理解を深めていきましょう。送り仮名の付け方にはルールがあり、2学期に学習した「活用」がポイントになります。復習をしておきましょう。

社会科シラバス（第2学年）

・指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・授業プリントを活用し、基礎学力の定着を目指します。
 - ・毎時間の授業の導入に前時の復習（反復学習）を実施します。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・「単元を貫く課題」を設定し、計画的に生徒が主体となる活動を設けます。
 - ・2～4人のグループ活動を取り入れ、話し合いを行います。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・問題集やノートを定期的に評価し、学習習慣の定着を図ります。
 - ・デジタル教科書を使用し、関心意欲や資料活用能力の向上を図ります。
 - ・埼玉県や上尾市の身近な地域の資料や課題を積極的に活用します。

・評価の観点と評価規準 ※各観点の達成状況 A80%以上 B50%以上 C50%未満

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
評価規準	社会的事象に対する関心を高めそれを意欲的に追究し、広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚を持って責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見だし社会的事象の意義や役割、相互の関連を多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ公正に判断し、適切に表現している。	現代社会の見方や考え方の基礎、社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、その意義や役割、相互の関連などを理解し、知識を身につけている。
評価方法	①授業中の観察 ②忘れ物 ③発言 ④提出物	①授業中の観察 ②発言・発表 ③ワークシート ④課題の提出物	①定期テスト ②授業中の観察 ③課題の提出物

○授業の際の持ち物

- ・筆記用具(のり・色ペン(3色以上・赤、青、緑が望ましい。))
- ・ノート・2冊(B5・B4の紙が貼れるような大きさ)→地理と歴史
- ・地図帳(地理と歴史のどちらでも使います)
- ・教科書

※時期によって地理と歴史が変わりますので、その時の教科書を持ってくること！

- ・ワーク(適宜、単元が終わったら進めておくといい！) 定期テストごとに提出です。
- 大石中のルールに基づいて、置き勉が許可されている物については置いていって大丈夫です。

○授業のルールについて

大石中のルールに基づいて行います。スタートラインや先生の話をよく聞くこと。

○ノートの使い方

左ページ ※プリントを貼る	右ページ ※メモや感想・まとめを書く
プリントに沿って、板書を先生が書きます。板書を書き写したり、適宜、メモをとったりしましょう。設問は時間をとりますので、個人やグループで考えましょう。	プリントは貼らない。先生が言ったことのメモや課題に対する答えや、自分で調べたことなどをまとめる。ノート点検でチェックします。(評価が多少上がります。)

【観点別評価について】

各教科のねらいに沿って設定される3つの観点をそれぞれAO～Cの5段階で評価する方法です。全教科3つの観点をもとに評定を確定することとなります。

- AO・・・十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの
A・・・十分満足できると判断されるもの
B・・・おおむね満足できると判断されるもの
CO・・・努力を要すると判断されるもの
C・・・一層努力を要すると判断されるもの

※AO＝5点,A＝4点,B＝3点,CO＝2点,C＝1点とする

評定	観点の点数	組み合わせ代表例
5	15～14	AOAOAO(15) AOAOA (14)
4	13～11	AOA A (13) A A A (12) AOB B (11)
3	10～8	A B B (10) B B B (9) B B CO(8)
2	7～5	BCOCO(7) COCOCO(6) COCOC (5)
1	4～3	COC C (4) C C C (3)

○その他

何か質問がある場合には、2－1の渡邊淳史まで聞きに来ること！！

数学科シラバス（第2学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・ 単元ごとの小テストにより、計算力の向上、基礎基本の定着を目指します。
- ・ 問題演習の時間を多くとり、自力解決できるようにします。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・ 式、表、グラフなどの様々な表現様式を用いて、事象の変化の様子や特徴を捉え、思考力・判断力・表現力を育成します。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・ 問題集やノート、振り返りシートを定期的に評価し、学習習慣の定着を図ります。
- ・ ICT を活用し、指導の工夫を図り、意欲を向上させます。
- ・ 4 人班での話し合い活動を積極的に取入れ、理解を深める時間を設けます。

評価の観点と評価規準

評価の観点	評価規準	評価の資料
主体的に学習に取り組む態度	A：授業に主体的に参加し、提出物を期限内に提出し、その取り組みも優れている。また自己の学習を振り返り、根気強く学習に取り組むとともに、より良く学習をすすめることができる。 B：授業に意欲的に参加し、提出物を期限内に提出することができる。また、自己の学習を振り返り、工夫して学習を進めることができる。 C：授業に積極的に参加していない又は提出物をしっかりと取り組めていない。学習の振り返りもはできていないが、改善が不十分である。	授業態度 ワーク・ノート 小テスト、復習プリント 単元ごとの振り返りシート
数学的な思考・判断・表現	A：数学的な見方や考え方が十分に身についており、根拠に基いて説明し表現することができる。 B：数学的な見方や考え方が身についている。考え方を表現できる。 C：数学的な見方や考え方が身についているが、努力を要する。	授業中の発表・取り組み テストの得点 小テストの得点 解き方の工夫
数学的な知識・技能	A：知識を用いて数学的な表現や処理を行い、活用することが出来る。 B：数学的な表現や処理の仕方が身についている。知識を備えている。 C：数学的な表現方法や処理の仕方が身についているが、努力を要する。	授業中の発表・取り組み テストの得点 テスト直し 説明力 (解き直しレポート)

各観点の達成状況 A 85%以上 B 45%以上 C 45%未満

原則、上に定めた基準で評価します。達成状況によっては基準が下がる場合があります。

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} A O ^{マル} A O ^{マル} A O	15 点	^{マル} A O ^{マル} A O A	14 点			5
^{マル} A O A A	13 点	A A A	12 点	^{マル} A O B B	11 点	4
A B B	10 点	B B B	9 点	B B C ^{マル} O	8 点	3
B C ^{マル} O C ^{マル} O	7 点	C ^{マル} O C ^{マル} O C ^{マル} O	6 点	C ^{マル} O C ^{マル} O C	5 点	2
C ^{マル} O C C	4 点	C C C	3 点			1

学習内容と評価のめあて

月	学習内容	指導のめあて
4	1章 式の計算 ・ 式の加法、減法 ・ いろいろな多項式の計算 ・ 単項式の乗法、除法	単項式と多項式の意味を理解し、乗法、除法の計算ができるようにする。
5	1章 式の計算 ・ 単項式の乗法、除法 ・ 文字式の利用	・ 文字式を用いて、関係や法則を一般的に表現したり、等式の性質を用いて目的に応じて変形できるようにする。
6	2章 連立方程式 ・ 連立方程式とその解 ・ 連立方程式の解き方 ・ 連立方程式の利用	・ 連立2元1次方程式とその解の意味を理解し、加減法、代入法によって連立方程式を解けるようにする。 ・ 複雑な形の連立方程式の解法が理解できるようにする。
7	・ 連立方程式の利用	・ 問題解決のために連立方程式を活用することができるようにする。
8	3章 一次関数とグラフ ・ 一次関数 ・ 一次関数の値の変化 ・ 一次関数のグラフ ・ 一次関数を求めること	・ 1次関数 $y = ax + b$ の関数関係を理解し、グラフを書けるようにする。 ・ 1次関数における変域を理解させ、いろいろな条件を満たす1次関数を求めることができるようにする。
9		
10	・ 一次関数と方程式 ・ 方程式とグラフ ・ 連立方程式とグラフ ・ 一次関数の利用	・ 関数のグラフを利用して、連立方程式が解けたり、その逆ができるようにする。
11	4章 図形の調べ方 ・ 平行と合同 ・ 角と平行線 ・ 多角形の角 ・ 三角形の合同	・ 多角形の内角、外角や平行線の性質を理解し、それを利用できるようにする。
12	・ 図形の性質の利用 ・ 証明 ・ 証明とその仕組み ・ 証明の進め方 5章 図形の性質と証明 ・ 三角形 ・ 二等辺三角形 ・ 直角の三角形の合同	・ 合同な図形の性質と三角形の合同条件を理解し、合同条件を使って、簡単な証明ができるようにする。
1	・ 四角形 ・ 平行四辺形の性質 ・ 平行四辺形になるための条件 ・ いろいろな四角形	・ 二等辺三角形の性質を理解し、二等辺三角形になるための条件を利用して、証明できるようにする。 ・ 直角三角形の合同の証明ができるようになる。 ・ 平行四辺形の性質を理解できるようにする。
2	・ 平行線と面積 ・ 図形の性質と証明の利用 ・ 図形の性質を利用した証明 6章 場合の数と確率 ・ 確率の求め方 ・ いろいろな確率 ・ 確率の利用	・ 平行四辺形になるための条件を理解し、それを用いることができるようにする。 ・ 長方形、ひし形、正方形の定義を知り、特別な場合と見ることができるようにする。 ・ 面積を変えないで、図形の形を変えることができるようにする。 ・ 確率の意味を理解し、いろいろな場面において、確率を求められるようにする。
3	7章 箱ひげ図とデータの活用 ・ 箱ひげ図 ・ データを活用して問題を解決しよう	・ 複数の資料について、四分位数を求め、箱ひげ図を表すことで、資料の比較を行うことができるようにする。

理科シラバス（第2学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・ 安全・正確に観察・実験を行う技能を身につけさせます。
- ・ ねらいを明確にした授業を行い、基礎・基本を身につけさせます。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・ 観察・実験の結果、記録などを、筋みちを立てて考察し、自分の考えをまとめ、他者の意見を取り入れ、深化させる学習活動を展開します。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・ 日常生活での事象や体験を意識した導入を行い学習意欲を向上させます。
- ・ 基礎・基本の確実な定着のために、小テスト、プリント、問題集等を活用します。

評価の観点と評価の資料

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の資料	実験の技能 レポート 技能テスト 定期テスト 小テスト	レポート 定期テスト 小テスト 等	学習への態度・姿勢 ポートフォリオ レポート・ノート 提出物・小テスト 振り返りシート・忘れ物 等

評価と評定の関連

○各教科の評定（5段階）は、各観点の評価（A○＝5点、A＝4点、B＝3点、C○＝2点、C＝1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表のとおりです。

3観点の合計（例）						
三観点の組み合わせ	合計点数	三観点の組み合わせ	合計点数	三観点の組み合わせ	合計点数	評定
A°A°A°	15点	A°A°A	14点			5
A°AA	13点	AAA	12点	A°BB	11点	4
ABB	10点	BBB	9点	BBC°	8点	3
BC°C°	7点	C°C°C°	6点	C°C°C	5点	2
C°CC	4点	CCC	3点			1

学習内容と学習のねらい

月	学習内容	学習のねらい
4	1 化学変化と原子・分子	・化学変化について観察・実験を通して、分解・化合などにおける物質の変化やその量的な関係について理解する。 ・化学変化にともなった事物・現象を原子、分子のモデルと関連づけて見る見方や変え方を理解する。
5	① 化学変化と物質の成り立ち	
6	② いろいろな化学変化 ③ 化学変化と物質の質量	
7	2 生物の体のつくりとはたらき ① 生物の細胞と個体 ② 植物の体のつくりとはたらき ③ 動物の体のつくりとはたらき	・観察を通して、生物の体は細胞からできていることを理解する。 ・観察・実験を通して、植物の体のつくりとはたらきを理解する。 ・観察・実験を通して、動物の体のつくりとはたらきを理解する。
8		
9		
10		
11	4 電気の世界	・電流回路についての観察・実験を通して、電流と電圧との関係および電流のはたらきについて理解する。 ・日常生活や社会と関連づけて電流と磁界についての初歩的な見方や考え方を養う。 ・観察・実験を通して、静電気や電子の性質について理解する。 ・放射線の人体への影響などについて理解する。
12	① 電流と電圧 ② 電流と磁界	
1	③ 静電気と電流	
2	3 気象とその変化 ① 気象の観測 ② 空気中の水の変化	・身近な気象の観察・実験・観測を通して、気象要素と天気の変化の関係をみいだす。 ・気象現象が起こるしくみと規則性についての認識を深める。
3	③ 低気圧と天気の変化	
	④ 日本の気象	
	⑤ 大気の躍動と恵み	

1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指して

- ・歌唱曲の作詞者・作曲者、時代背景など要素の学習を通して、音楽の基礎基本を身に付けさせます。
- ・歌唱においては、楽譜（旋律）からの音とり活動を充実させ、読譜力を身につけさせます。
- ・鑑賞では、作曲した音楽家の時代や楽曲構成の理解、DVDの鑑賞により音楽的感性の感受と音楽的要素を取り入れた文章による表現を行ないます。

歌唱	・とにかく声量のある美しい声で歌うことが最も大切なので、積極的に声を出すことを目指します。 ・音楽の授業やいろいろな行事で歌うときには声量があれば高評価につながります。歌のテストでは声量・響き・美しさに一番の比重をおきます。
器楽	・主にアルトリコーダーの個人練習が中心となります。一生懸命取り組ませます。楽器の演奏は努力しないと上達しませんので、時間いっぱい練習させます。
鑑賞	・動画の鑑賞して感じたことの感想記入や、教科書を使い鑑賞する曲の楽曲背景や音楽史などを学習します。鑑賞の感想を書く場合は「迫力があつた」「良かった」の一言で感想を書いたり、述べたりではなく、音楽の諸要素を言葉で表現できるように、自分の言葉できちんと説明できるような学習をさせます。

2 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成を目指して

- ・心から音楽を楽しむ授業〈わくわく・ドキドキ・いきいき〉を展開するとともに、特に鑑賞では書くことで思考力を高めさせます。
- ・音楽科では、生徒の発達段階や題材の特質に応じて、信頼性・客観性のある絶対評価の充実を図り、指導と評価の一体化された活動を展開することで表現力やその他の技能の向上を図ります。

3 学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指して

- ・学習内容に関する興味・関心を把握し、題材における導入や展開の工夫（デジタル教科書の使用）、生徒の実態に合わせた学習の展開をします。
- ・授業六束から、正しい服装を整え、聴くときは聴く、歌うときは正しい姿勢で歌わせ、積極的に歌唱やリコーダーを練習し、表現できるようにします。

4 持ち物

授業の時には「音楽の教科書1」「音楽の教科書2・3上」「音楽の教科書2・3下」「器楽の教科書」「コーラス フェスティバル」「アルト・リコーダー」「筆記用具」を持って来てください。これらは音楽用のバッグにまとめて入れることを推奨します。下校時にはロッカー等に置いたままで差し支えありません。忘れ物をした場合は減点となりますので注意してください。また、各学期末には音楽の筆記試験、実技試験もあるので、試験前には持ち帰って自宅で復習をしてください。

5 実技及び定期テストについて

歌唱	・声量、美しさ、音程、音楽の表情、姿勢、口のあけ方等を見ます。声量・美しさに最も重点として見ていきます。テストの時だけ大きな声を出しても高得点にはなりません。日々の取り組みが大切です。
器楽	・美しい音色でなめらかに演奏できているか、タンギングはきちんとできているか、曲の終わりまで演奏できたか、指使いは正しいか、姿勢などをみます。
鑑賞	・鑑賞の授業後の感想用紙 および 各学期の期末試験で勉強した知識の確認を行ないます。

6 評価の観点と評価規準

① 主体的に学習に取り組む態度

授業への積極的な取り組みや授業態度を中心に評価します。歌唱や器楽は得意・不得意に関係なく大きく美しい声で歌い自分の力で音楽を表現することが大切です。自ら進んで練習に取り組み楽曲に向き合うことも必要になります。

ただ授業に参加しているだけで声や演奏の音が聞こえない人、練習を怠る人、私語の多い人、忘れ物の多い人は、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断します。生徒手帳および本校生活のきまりに準じた服装で授業に臨むこととします。

儀式に関わる科目でもありますので服装や作法の育成も必要となります。服装が乱れている場合、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断します。

授業に参加するにあたって何も持ってこなかったり、教科書やリコーダー等の忘れが多かったりする人は、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断し、評価をCとします。

【主な内容】 授業態度、提出物の状況、忘れ物の有無、積極的に歌い演奏しているか等。

【その他】 ①実技や鑑賞の試験が良い成績であっても、授業妨害（他の生徒への迷惑行為 および 学習権の侵害など）があり、指導をしても改善がない場合は、評価をCとし評定を1とすることもあります。

②授業態度、実技試験や筆記試験の結果によっては、授業出席日数が十分であっても評定は1や2となります。

②思考・判断・表現

歌唱（合唱・斉唱・独唱）、器楽演奏の実技試験を行ない、その結果で評価します。

実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価ができないため、評価をCとします。

【主な内容】 強弱や歌詞など楽曲に応じた表現ができているか。曲趣に応じた音楽的身体表現。

③知識・技能

その時に勉強している楽曲に関係する知識が必要です。各学期末に行なう定期試験の結果を中心に評価します。また、鑑賞の授業中に居眠り、私語の多い人は筆記試験の点数が規準に達していても、音楽を鑑賞する気がないものと判断し評価をCとします。

歌唱（合唱・斉唱・独唱）、器楽演奏（合奏・独奏）の実技試験を行ない、その結果で評価します。実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価ができないため、評価をCとします。

【主な内容】 期末試験の得点、鑑賞の取り組み状況など。

正しい音程で歌えているか、リコーダーは正しい指使いができているか、タンギングができているか。姿勢など。

7 評定の主な例

【観点別学習状況の評価】

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：A○

十分満足できると判断されるもの：A

おおむね満足できると判断されるもの：B

努力を要すると判断されるもの：C○

一層努力を要すると判断されるもの：C

※評定（5段階）は、各観点の評価（A○＝5点、A＝4点、B＝3点、C○＝2点、C＝1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表(例)のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A○ A○ A○	15 点	A○ A○ A	14 点			5
A○A A	13 点	A A A	12 点	A○ B B	11 点	4
A B B	10 点	B B B	9 点	B B C○	8 点	3
B C○ C○	7 点	C○ C○ C○	6 点	C○ C○ C	5 点	2
C○ C C	4 点	C C C	3 点			1

8 学習計画

	題材	教材	主な到達目標
第1学期	歌唱する喜びを味わう	校歌 翼をください	校歌を通して大石中学校生徒としての自覚を持たせ、音楽を愛好する心情と歌う意欲を育てる。
	パイプオルガンの響き	フーガ ト短調	パイプオルガンの響きに親しみ、旋律と旋律が絡み合う面白さを味わうことができる。
	日本の情景を歌い上げよう	夏の思い出 花の街	旋律の抑揚を生かし、伴奏の響きを感じ取りながら尾瀬の美しさを表現することができる。楽譜や歌詞から様々なことを読み取り、表情を深めることができる。
	曲想を感じて器楽演奏しよう	アルトリコーダー 一奏法基礎	アルトリコーダーの基礎・基本を習得し、器楽演奏する。
	混声合唱の響き	合唱祭 クラス自由曲の選曲	合唱祭への取り組みを通して、様々な合唱曲を聴くことで表現力と音楽を愛好する心情を育てる。
第2学期	詩と旋律合唱の響き	地球星歌 クラス合唱曲	声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱する能力を育てる。合唱祭への参加を通して、色々な合唱曲に取り組み表現力と合唱を愛好する心情を育てる。
	曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わう	交響曲第5番 ハ短調	曲想と音楽の関わりについて理解し、オーケストラの豊かな響きを感じ取りながら味わうことができる。
第3学期	日本の伝統音楽に親しもう	越天楽 越天楽今様	雅楽の歴史と伝統を理解する 現在の楽器に置き換えて雅楽に擬似体験をする
	オペラに親しもう	アイーダ	オペラの総合芸術としての要素やオペラが上演されるまでの理解とアイーダの壮大な音楽を親しむことができる。
	卒業式に向けて	卒業式歌 旅立ちの日に	2年生として最後の合唱に取り組むに当たり、発声・曲想ともにまとめとなる合唱を作り上げる。

生徒一人一人にも、最初の授業にほぼ同内容のガイダンスを行なっております。

音楽の力を身につけていくためには・・・

「音楽を支える力」と「言語力」は、“車の両輪”のような関係です。言語力を身につけるために、国語の授業にしっかりと取り組みましょう。読書に親しみましょう。それが巡り巡って「音楽を支える力」を培っていきます。

さらに深く追求したい人へ、実は音楽の美しさは、たとえば、9割以上を数学、物理で合理的に説明できます。数学的に分析ができない音楽の美しさはあり得ません。それはジャンルを問わず、地域を問わず、今昔を問わずです。深く追求したい人は、数学と物理をしっかり学習してください。

その上で・・・言葉では説明できないものが積み重なるから、音楽は“芸術”なのです。最初から“言葉では説明できない”というのは、本質を追求することから逃げているに他なりません。

美術科シラバス（第2学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・対象を深く感じ取る力や想像力を一層深め、考えること、心の世界を形や色彩などでより深く表現させる。
- ・自然の造形、美術作品や文化遺産などへの理解や見方を深めさせる。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・独創的・総合的な見方や考え方を培い、形や色彩の特徴などを基に対象のイメージをとらえる。
- ・自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫し、制作の手順を考え、見通しを持って制作させる。
- ・作品などに対する思いや考えを説明し合い、見方や感じ方を広げる。

○主体的に学習に取り組む態度の確立をめざして

- ・新授業六束を基本に、教科の特性を生かしながら指導を徹底する。
- ・生徒作品の展示を積極的に行い、鑑賞活動を通して制作意欲を高め、他者理解ができるようにさせる。

評価の観点と評価規準

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
評価の観点	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
評価の資料 (学習のポイント)	授業態度、提出物、忘れ物、自己評価カード、ポートフォリオ	制作時の発想やアイデアスケッチ、構想や制作計画、ワークシート	制作した作品、適切な道具の使い方

評価と評定の関連

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：A○

十分満足できると判断されるもの：A

おおむね満足できると判断されるもの：B

努力を要すると判断されるもの：C○

一層努力を要すると判断されるもの：C

※評定（5段階）は、各観点の評価（A○＝5点、A＝4点、B＝3点、C○＝2点、C＝1点）

をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評価
^{マル} A○ ^{マル} A○ ^{マル} A○	15 点	^{マル} A○ ^{マル} A○ A	14 点			5
^{マル} A○ A A	13 点	A A A	12 点	^{マル} A○ B B	11 点	4
A B B	10 点	B B B	9 点	B B ^{マル} C○	8 点	3
B ^{マル} C○ ^{マル} C○	7 点	^{マル} C○ ^{マル} C○ ^{マル} C○	6 点	^{マル} C○ ^{マル} C○ C	5 点	2
^{マル} C○ C C	4 点	C C C	3 点			1

学習内容と学習のポイント

月	学習内容	学習のポイント
4	オリエンテーション ～主体的な学び方～	・ 1 年間の学習目標や内容を理解する。
5	抽象画 ～心のイメージを形にしよう！～	・ 色や形質感等を組み合わせ試行錯誤し、それらが感情にもたらす効果を理解している。 ・ 自分の表現したいものに相應しい技法や構図、配色等を選択している。 ・ 自他の作品を鑑賞し、不思議な世界観の良さや楽しさを感じ取る。
6		
7		
8	《夏休み課題》 地域への思いを描く【風景画】	・ 既習の技法を生かし、身近な風景を表現する。
9	ポップアップカード【立体】 ～相手がもらって嬉しい・笑顔になるカードを作るには？～	・ 思いや気持ちを相手に伝えることができるカードに興味・関心を持つ。 ・ 受け取る人の気持ちを考え、飛び出す仕組みやカードの構想を練る。 ・ 形や色彩を工夫し、楽しく美しいカードを制作する。 ・ 作品の表現の良さやカードに込められた作者の思い、良さに気づく。
10		
11		
12	COOL JAPAN ～自分が漫画のキャラクターになったら！？～	・ 漫画表現の線や形、動きやオノマトペを表現する技法などから視覚伝達の効果を感じ取る。 ・ 自分の特徴を探り、漫画表現を用いて、

		自分らしいキャラクターをデザインしている。
1	パッケージデザイン ～売れるパッケージはどんな工夫がある？～	• 色・形・キャッチコピーに着目し、「売れるパッケージの工夫は何か」意欲的に探り、鑑賞している。 • 自分の考えたパッケージのデザインをアピールするレイアウトを考えている。 • 自他の作品を鑑賞し、主題に対してが効果的に使われているか、またその良さを感じ取る。
2		
3		

2学年 保健体育科シラバス

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・技能の習得に向け、基礎的・基本的な運動を行い体力の向上を図る。
- ・新体力テスト県平均値を超えることを基本とした体力・技能の向上を図る。
- ・授業のねらいを意識して、授業に取り組む。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・少人数集団、グループでの話し合い活動を充実させる。
- ・学習カードを作成し、毎時間の自己評価、反省・感想を記入させ、発表する活動を展開する。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・チャイム前着席、あいさつ、返事、時間を守るなど、授業規律を徹底し、学習活動をスムーズに行えるようにする。

評価の観点と評価規準

	主体的に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
評価規準	学習の約束事を守り、大きな声を出し、自ら意欲的に活動することができる。役割分担や仲間と協力して取り組むことができる。また、友達の考えや取組を認めることができる。	ねらいを持って活動し、学習カード等を利用した自己の反省・課題を見つけることができる。提示された動きなどのポイントと自己の動きを比較して課題を発見することができる。自己の課題について、思考し判断したことを、言葉や文章及び動作などで表したり、他者に理由を添えて伝えることができる。	体の動かし方や用具の操作方法などの知識を身につけることができる。基本的な技能を身につけることができる。☆単に運動に必要な知識や技能を身につけるだけでなく、運動の行い方などの知識を基に運動の技能を身につけたり、また、運動の技能を身につけることで、その理解を一層深めることができる。
評価の方法	出席状況や忘れ物 提出物 授業中の取り組み	学習カード 授業中の発言や発表	技能テスト 単元テスト 授業中での動きや発言

評価と評定の関連

○各教科の評定（５段階）は、各観点の評価（A°、A、B、C°、C）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

A° =5点 A=4点 B=3点 C° =2点 C=1点

評定	観点の点数	組み合わせ例
5	15～14	A° A° A° (15) A° A° A (14)
4	13～11	A° A A (13) A A A (12) A° B B (11)
3	10～8	A B B (10) B B B (9) B B C° (8)
2	7～5	B C° C° (7) C° C° C° (6) C° C° C (5)
1	4～3	C° C C (4) C C C (3)

領域および学習内容

月	領 域	学 習 内 容
4	体育理論	- 各種運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方、自己生活の中での生かし方を理解する。 - 各種運動の特性（特有の技術や戦術を知り、その学び方には一定の方法があることを理解する。） - 安全の確保の仕方 - 自分に合った運動の仕方を身に付ける。
4 5	体づくり運動 【体育祭】	- 体ほぐしの運動や体力を高める。 - 運動の必要性を理解させ自己の体力や生活に応じて総合的な体力を身につける。 - 体の調整の仕方。 - 柔軟性、巧み性を高める。 - 持久力、力強い動きを高める。
5 6	陸上 【短距離・リレー】 【ハードル走】	- 走の技能を高め、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡しでタイミングを合わせる、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。 - 仲間と協力しながら取り組むことができる。 - 練習を工夫し、目標を設定して記録向上に努める。
6 7	水泳 【クロール】 【平泳ぎ】	- 各種の泳法で自己にあった練習課題を設定して、練習し、続けて泳げるようにする。 - 安全に留意して練習する態度を育てる。 - 水になれる運動 - 課題別練習 - より上手に長く泳ぐための練習 - 同じ課題をもったもの同志でグループ学習。
9 10	器械運動 【マット】	- 各種運動の基本的技能を高め、できる技できそうな新しい技に挑戦し、組合せを工夫し、楽しむことができるようにする。 - 自己の課題を見付け、互いに補助活動しながら技能習得に努める。 - 場の安全に留意することができる。 - 課題別練習と発表会 - 課題別グループ練習
9 10	ダンス 【現代的なリズムのダンス】	- 人間関係を広げながら楽しくのびのびと踊れるようにする。 - 自然や日常生活の中から題材を選び感性豊かに表現する。（創作ダンス） - アップテンポなリズムに乗って全身を使って自由に踊る。（現代的なリズムのダンス）
11	球技 【バスケットボール】	- 各種運動の基礎的技能を習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。 - 仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。 - コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができる

	【ハンドボール】	ようにする。 ・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。 ・集団的技能 ・個人技能
11 12	武道（※選択） 【剣道】 【柔道】	・基本動作や基本的な対人技能を身につけさせ、その攻防による簡単な試合ができるようにする。 ・互いを尊重し、礼儀を重んじた正しい練習や試合の方法を身に付ける。 ・剣道、柔道 礼法、基本動作、技の習得、簡易試合。 ・人間関係を広げながら楽しくのびのびと踊れるようにする。
11 12	球技 【ソフトボール】	・各種運動の基礎的技能を習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。 ・仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。 ・コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。 ・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。 ・集団的技能 ・個人技能
1	陸上競技 【長距離走】	・長い距離を走り通すとともに自己の記録を向上させる。 ・長距離走の走法、呼吸法、ペース配分を身に付ける。 ・練習を工夫し、目標を設定して記録向上に努める。 ・個人技能
2 3	球技 【バレーボール】	・各種運動の基礎的技能を習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。 ・仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。 ・コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。 ・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。 ・集団的技能 ・個人技能
2 3	球技 【サッカー】	・各種運動の基礎的技能を習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。 ・仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。 ・コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。 ・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。 ・集団的技能 ・個人技能

技術・家庭科シラバス（第2学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

体験的な授業、繰り返し学習を重視するなど、個に応じた指導を発達の段階に応じて徹底して習得させ、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

小グループでの話し合いを通して言語活動の充実を図る。

図や計画表などを使い、表現活動も充実するような課題を設定する。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

新授業六束を徹底させ、チャイム前着席や提出物、学習規律の確立を図る。
生徒の工夫し創造する力を高められるよう個が活かせる授業の設定や掲示の充実を図る。

評価の観点と評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、生活と技術とのかかわりについて理解しているとともに、適切に作品作りを行うことができる。	生活について問題を見出し、課題を見つけ、その解決を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生活や技術について課題解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を充実向上するために、工夫し創造し、実践しようとしている。
評価資料	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・作品 ・実習の様子	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・授業や実習の様子	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・授業や実習の様子
評価の方法	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・製作品の出来を評価する。 ・実習中の実技の能力を評価する。	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・授業中の言動を評価する。	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・授業中の言動を評価する。

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} A O ^{マル} A O ^{マル} A O	15 点	^{マル} A O ^{マル} A O A	14 点			5
^{マル} A O A A	13 点	A A A	12 点	^{マル} A O B B	11 点	4
A B B	10 点	B B B	9 点	B B ^{マル} C O	8 点	3
B ^{マル} C O ^{マル} C O	7 点	^{マル} C O ^{マル} C O ^{マル} C O	6 点	^{マル} C O ^{マル} C O C	5 点	2
^{マル} C O C C	4 点	C C C	3 点			1

学習内容と指導のめあて（2 年）

	月	学習内容	指導のめあて
技術分野	10 11 12	【情報の技術】 ・情報通信ネットワークの仕組み ・Webの仕組みと情報の表現 ・情報セキュリティと情報モラル ・知的財産の保護と活用 ・双方向性のあるコンテンツによる問題解決 【①メッセージ送受信システムの構築】 【②地図アプリの作製】 ・これからの情報技術	・ネットワークとホームページについて知ろう。 ・知的財産と情報モラルについて知り適切なネットワークの利用ができるようにしよう。 ・マイクロビットでメッセージの送受信を試みよう ・生活に役立つ地図アプリをつくろう ・製作品と社会を結びつけてみよう ・製品の未来を提案しよう
	1 2 3	【材料と加工の技術】 ・生活や社会と材料の加工の技術 ・材料を利用するための技術 ・製作のための技術 ・材料と加工の技術による問題解決 【便利棚の製作】 ・これからの材料と加工の技術	・生活の中にある材料と加工の技術を見つけよう ・材料の特徴を知ろう ・材料の加工法を知ろう ・製品の構造について知ろう ・木材を加工してみよう ・生活に役立つ便利棚をつくろう ・製作品と社会を結びつけよう ・製品の未来を提案しよう

家庭分野	4	【健康と食生活】	
	5	・食事について考える	・栄養素のはたらきと含まれている食品について知る
	6	・生活のリズムと食事	・中学生に必要な栄養について知る。
	7	・栄養素のはたらきと食品	・安全や衛生に留意し、基礎的な日常食の調理や調理用具の扱いができる。
	8	・中学生に必要な栄養	
	9	・調理の基本（実技テスト）	
	10	・野菜料理（調理実習・計画）	（肉料理・魚料理・野菜料理・郷土料理）
		・肉料理（調理実習・計画）	
		・魚料理（調理実習・計画）	
		・食事の計画	・野菜料理の特徴を知り、調理ができる。
		・生鮮・食品の選択と表示	・肉料理の特徴を知り、調理ができる。
		・食品の保存	・魚料理の特徴を知り、調理ができる。
		・地域の食文化（郷土料理）	・地域の食材を生かした調理、食文化を知る。

2年生は前期に技術、後期に家庭科を行います。家庭科の通年の評価を2学期に記載し、技術の通年の評価を3学期に記載します。1学期の評定の記載はありません。

英語科シラバス（第2学年）

1. 基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

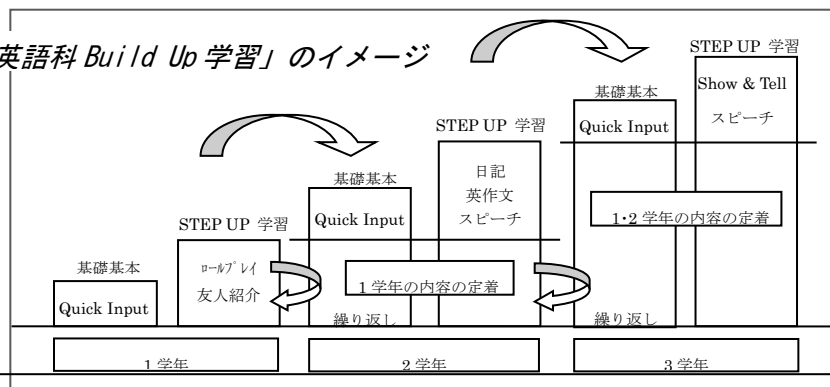
- ・繰り返し学習である「Quick Input 活動」では基本文の定着を目指します。
- ・単語などの小テストの実施による基礎・基本の徹底を目指します。

観点	評価内容	評価方法
主体的に取り組む態度	・自分の考えを話したり、つなぎ言葉を使って話を続けたりしようとしている。 ・間違いを恐れずに積極的に言語活動に取り組める。 ・積極的に音読し、わからないところは辞書を活用して読もうとしている。 ・知っている語句や表現を使って相手に英文を書いて伝えようとしている。	・会話活動 ・クイックへの取り組み ・挙手、発言 ・提出物等
思考力 判断力 表現力	・自分の考えや意見を話したり書いたりすることができる。 ・場面や状況にふさわしい表現を用いて話したり、応答したりできる。 ・	・定期テスト ・スピーチや作文 ・音読テスト ・会話テスト
知識・技能	・話し手の考えや意見を聞いて理解することができる。 ・まとまりのある英文を読んで、あらすじやその内容を理解することができる。 ・英語の言語構造を理解し、正しい語順と文法で身につけている。 ・英語を使う上で必要な英語圏の生活習慣や文化的背景について理解している。	・定期テスト ・リスニングテスト ・長文読解 ・英単語テスト ・ワークシート

2. 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・「Quick Input 活動」や「My Project」などで、さらに実際に活用させる場面を作り応用力を高めていく「Step Up 学習」へと活動を広げていきます。
- ・「英語で絵日記を書こう」などの課題に取り組み、Quick Input 活動で定型文やたくさんの表現を学び、その表現を覚えて語句を置き換えることで、自分の意見や考え、経験を文章にしていくアウトプット活動につなげることで英語で表現することに慣れていきます。

「英語科 Build Up 学習」のイメージ



3. 学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・「新授業六束」をしっかり守り、授業に臨む姿勢を育成します。
- ・ノートやワーク、Quick Input 等を活用し、家庭学習を習慣化できるようにします。
- ・授業で習った内容を定着させるため、毎時間、宿題を提示します。必ず家でやりましょう。

4. 2年生の目標

1年生で学んだ英語の基礎をふまえ、より多くの語句や文法項目を身につける。特に、教科書本文の意味がわかる（読むこと）、授業内の指示が英語で聞ける（聞くこと）、みんなの前で英文を発表する（話すこと）、自分の経験などを英文にできる（書くこと）、を目標とします。

5. 使用教材と持ち物「5点セット」

- 教科書 1冊
- ノート 2冊（授業用と練習用）
- ワーク
- ファイル 1冊（授業プリント用）
- 辞書（必要な人は）

6. 授業について

- 休み時間のうちに授業の用意をしましょう。
- 宿題を必ず行いましょう。
- A L T (外国人の先生) が来た時には、積極的に会話に参加しましょう。
- 忘れ物をしたときには、授業前に先生に言いに来ましょう。
- 普通の授業でも、英語を使うことに慣れるために積極的に発言しましょう。
- 参加意欲や授業態度、単語テストや音読テストは評価に影響します。

7. 英語の学習法・ポイント

- 新しくでてきた単語・連語は全てしっかり覚え、書けるようにする。
- 授業中の発音、発言は大きな声でしっかりとする。
- 授業で習った内容はワークや宿題を活用して、その日のうちに復習する。
- 定期試験までに、学習している文法項目を整理して、まとめておく。
- “Quick Input” のシートを繰り返し読んで覚え、音読できるようにする。



8. 評価の観点と評価規準

評価と評定の関連

※評定(5段階)は、各観点の評価(A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点)をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表(例)のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A ^{マル} O A ^{マル} O A ^{マル} O	15点	A ^{マル} O A ^{マル} O A	14点			5
A ^{マル} O A A	13点	A A A	12点	A ^{マル} O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C ^{マル} O	8点	3
B C ^{マル} O C ^{マル} O	7点	C ^{マル} O C ^{マル} O C ^{マル} O	6点	C ^{マル} O C ^{マル} O C	5点	2
C ^{マル} O C C	4点	C C C	3点			1

9. 学習内容と評価のめあて

	月	学習単元	学習内容・文法項目	学習のねらい
1学期	4	Program 1	・未来表現 be going to ~ / I will ・動名詞 I enjoy ~ing	・予定や計画を言える。 ・行動の目的を言える。
	5	Program 2	・接続詞 I think (that) ~ ・接続詞 when / 接続詞 if 「」	・自分の考えを表現することができる。 ・いつ何をするのか、条件の内容を説明できる。
	6	Program 3	・不定詞の3用法 (名詞的・形容詞的・副詞的)	・自分のしたいことを言う。行動の目的を言う。 ~するため の表現できる。
	7	Our Project	・海外でヒットするラーメンのCM を 作る。 ・Reading The Three Dolls	・既習の言語材料を用いて考えや情報を整理し、 プレゼンテーションを行うことができる。 ・場面や登場人物の心情を読み取ることができる。
2学期	9	Program 4	・不定詞(感情の原因を表す) ・助動詞 must / have to ~	・「~して」と感情の原因を表すことができる。 ・「~しなければならない」という義務や命令、 必要性を表現できる。
	10	Program 5	・how to + 動詞の原形 ・look + 形容詞 ・lend + 人 + もの	・「~の仕方」「どのように~するか」を言える。 ・動作について様子・状態を言う。~に・・を貸 す の表現が使える。
	11	Program 6	・比較級(~er) (more) ・最上級(the est) (the most) ・as ~ as / not as ~ as	・2つのものを比べる、3つ以上のものを比べる、 同じ程度のものを比べる表現が使える。 ・長い形容詞の比較級、最上級が使える。
	12	Our Project	・日本のおすすめスポットを紹介し よう ・Friendship beyond Time and Borders	・既習事項を使い、日本のおすすめスポットの魅 力が伝わるポスターを作ることができる。 ・時間の経過や人物の心情の表現を理解できる。
3学期	1	Program 7	・比較級 better ・最上級 best ・teach + 人 + how to ~	・「…よりも~が好き」と表現できる。 ・「~が最も好きです」と表現できる。 ・「人にどのように~するかを…する」と言える。
	2	Program 8	・受動態 be + 過去分詞 + (by) ・be known to~, be filled with	・「(…によって) ~される」など、受け身の文で 動作をする人を説明できる。 ・by を使わない受け身の慣用表現を理解できる。
	3	Our Project	・My Hero の魅力を伝えよう ・Reading Apollo 13	・自分の尊敬する人物について書くことができ る。 ・場面や登場人物の心情を表す表現を理解でき る。